

保護者の皆様



「いじめに関するアンケート」集計結果

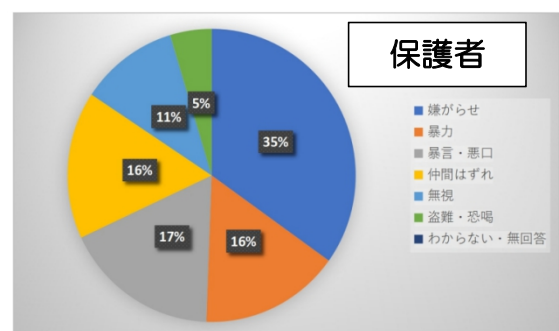
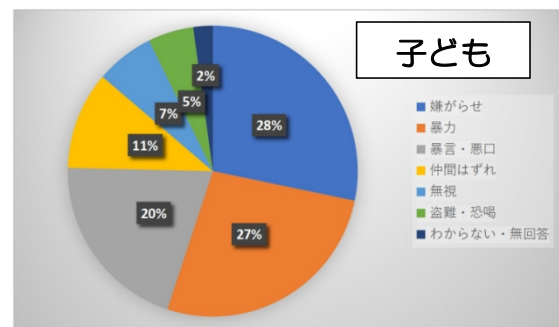
先般は「いじめに関するアンケート」へのご協力をいただき誠にありがとうございました。アンケートの期限内回答率は75%（園舎：80% MR：70% 小数点以下四捨五入）でした。集計対象は、提出期限内に回答のあったアンケートすべてです。（期限後に提出いただいたものは集計対象からは外れますが、内容を参考にさせていただきます。未提出の場合もご協力をお願い致します。）この集計結果は「いじめ防止強化月間」の取組として、三重県教育委員会にも提出致します。

「いじめ」は、どの児童生徒にも起こり得るものであり、また、どの児童生徒も被害者にも加害者にもなり得ます。だからこそ、関係機関や学校、家庭、地域など社会総がかりで取り組む必要があります。弊所も小学校等と連携を取り、いじめ根絶に向けての取組を続けていきます。ご家庭でも規範意識の指導と、日頃のお子様とのコミュニケーションを大切にさせていただきますよう、ご協力をお願い致します。

Q1. ということがいじめにあたると思われますか。

回答	子ども	保護者
嫌がらせ	39	60
暴力	37	27
暴言・悪口	28	30
仲間はずれ	15	28
無視	9	19
盗難・恐喝	7	8
わからない・無回答	3	0

多種多様な回答がみられた。「嫌がらせ」には『精神的苦痛を与えること』、『自分だけでは解決できない苦しいこと・辛いこと』、『相手が嫌な気持ちになったときがいじめのはじまり』等の回答も含む。保護者の「暴言・悪口」の回答には、『SNSを使った陰口』と、新しいいじめのかたちとして拡大している、いわゆる「ネットいじめ」に言及したものも含まれた。「仲間はずれ」については、『1対多数』、『排除しようとする』、『他者との違いを受け入れず認めないこと』等の回答もあった。



「津市いじめ防止基本方針」より いじめの具体的態様

「個々の行為がいじめであるかどうかについては、表面的・形式的に判断することなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行います。」



ご家庭でも
振り返ってみてください

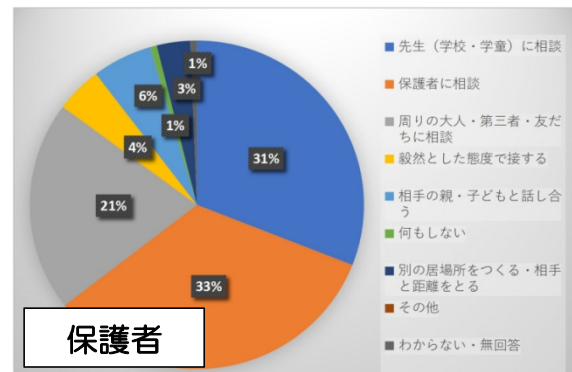
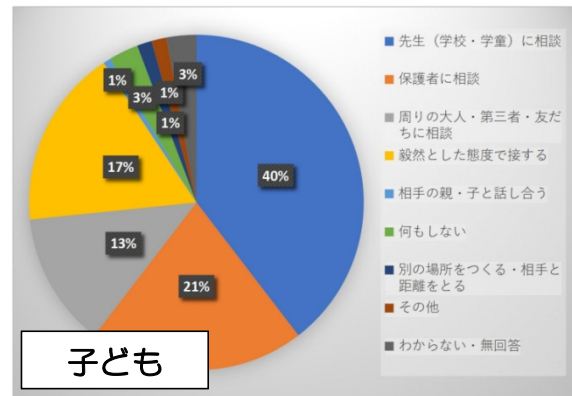
- ア 冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- イ 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- ウ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- エ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- オ 金品をたかられる。
- カ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- キ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- ク パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。等

Q2. もしいじめられたらどうしますか。

回答	子ども	保護者
先生（学校・学童）に相談	55	48
保護者に相談	29	52
周りの大人・第三者・友だちに相談	18	32
毅然とした態度で接する	24	7
相手の親・子と話し合う	1	9
何もしない	4	1
別の場所をつくる・相手と距離をとる	2	5
その他	2	0
わからない・無回答	4	1

子どもの74%、保護者の85%が「先生（学校・学童）に相談」・「保護者に相談」・「周りの大人・第三者・友だちに相談」のいずれかと回答し、相談することの重要性は概ね認識されているととらえた。相談先で最も多かった回答は、子どもは「先生（学校・学童）」で40%、保護者は「保護者」で33%であった。その背景には『子どもの話をしっかり聞く』、『親子でまず話し合う』、『親には何でも話してほしい』等と保護者の思いがあった。

「毅然とした態度で接する」に該当し、『相手に「やめて」と言う』等と直接自分の意思を表示するという回答については、子どもの17%を占めるのに対し、保護者では4%にとどまった。



Q3. 周りの子でいじめられている子がいたらどうしますか。

回答	子ども	保護者
先生（学校・学童）に相談	47	44
保護者に相談	4	15
周りの大人・第三者・友だちに相談	11	20
声をかける・優しくする・助ける	32	19
（いじめている子に）注意する・止める	20	11
双方から話を聞く	1	4
何もしない	1	2
その他	1	11
わからない・無回答	4	1

子どもは26%が「声を掛ける・優しくする・助ける」、17%が「注意する・止める」、合わせて43%が主体的に何らかの働きかけをすると回答している。それに対し、保護者は「声を掛ける・優しくする・助ける」が15%、「注意する・止める」が9%、合わせて24%にとどまる。その背景には『二次被害に及ぶといけない』、『自分の子もそのいじめの的にされるのも嫌』と子どもが直接介入することを懸念する声や、『子ども個人の力でどうにかするのは限界がある』、『早急に複数の大人の介入が必要』と大人を介入させることの必要性を説く声があった。

